

# 科学技術イノベーション予算戦略会議（第1回） 議事概要

1. 日時・場所 平成25年6月20日（木）11:00～12:10  
於：中央合同庁舎4号館 共用第2特別会議室

2. 出席者 山本科学技術政策担当大臣（議長）  
総合科学技術会議 原山議員、久間議員、橋本議員  
内閣府 倉持政策統括官（副議長）  
中野官房審議官、森本官房審議官、山岸官房審議官

内閣官房	赤石日本経済再生総合事務局次長
警察庁	内藤長官官房技術審議官
総務省	久保田大臣官房総括審議官
外務省	北野軍縮不拡散・科学部長
文部科学省	土屋科学技術・学術政策局長
厚生労働省	三浦大臣官房技術総括審議官
農林水産省	小林農林水産技術会議事務局長
経済産業省	鈴木産業技術環境局長
国土交通省	難波大臣官房技術総括審議官
環境省	白石総合環境政策局長
防衛省	渡辺大臣官房技術監

## 3. 概要

### <開会>

冒頭、議長である山本大臣から以下の挨拶があった。

- 安倍総理から「総合戦略を確実に実行に移して、成長戦略等にも反映していくことが、何よりも重要」と御指示があり、総合戦略をスピード感を持って実行に移していくことが重要。これを受けて、総合戦略における司令塔強化策の重要な柱であり、成長戦略にも盛り込まれた政府全体の科学技術関係予算を主導する「科学技術イノベーション予算戦略会議」について早速、第1回会合を開催。

26年度予算からは、①総合戦略を予算編成プロセスが始まる早期に閣議決定し、速やかに予算戦略会議を開催し、予算重点化の考え方を早く提示する「スピード感」、②各府省の科学技術政策の責任者が一堂に会した予算戦略会議で、重点化の方針に関する意識を共有し、各省庁の考えも資源配分方針に反映する「一体感」、③財務省との緊密な調整・連携による予算重点化の「実効性」を向上するといった点で予算編成プロセスは大きく進化。今後とも各府省には協力をお願いしたい。

### <議事>

（会議の設置根拠について資料1のとおり関係府省で申し合せた後、以下の議題に沿って進行。）

- （1）科学技術イノベーションの総合戦略について  
（内閣府から資料2に基づき説明）

(2) 平成26年度科学技術関係予算の重点化等の進め方について  
(内閣府から資料3に基づき説明)

(3) その他

(意見交換での主な項目に関する大臣発言のポイントは以下のとおり。)

#### <科学技術関係予算の確保・重点化>

○ 平成26年度予算における科学技術関係予算総額の確保は重要。予算重点化においては、出口志向と社会実装を強調し、しっかり予算措置されることが重要。

#### <戦略的イノベーション創造プログラム及び革新的研究開発支援プログラム>

- 戦略的イノベーション創造プログラムの予算規模は最低でも500億円で内閣府に計上したい。総合科学技術会議の民間議員で議論の上、早く具体的な姿を示したい。制度づくりの段階で寄せ集めにならぬよう、特徴のある府省連携、出口志向のプログラムに仕上げ、対象とするテーマは総合科学技術会議が目利きして決めたい。
- 経済活性化、産業化に結び付けるという観点から、米国DARPAのようなハイリスク、ハイインパクトの研究開発も必要。出口志向を基本に構想を練り上げたい。
- FIRST後継についてはタイムテーブルを決めて、しっかりと次のプログラムの姿を示すことができるよう議論を進めたい。

#### <「日本版NIH」との関係>

○ 「日本版NIH」については、内閣として戦略を持って創設するとしており、前向きに受け止めている。医療分野の研究開発に関する予算については「日本版NIH」がリーダーシップを取ることとしている。

(有識者議員の発言のポイントは以下のとおり。)

- 研究開発のみならず社会実装が重要だが、現場がなくては実装ができないので、関係府省と協力して最大限に活用したい。府省の枠組みを超えたアプローチを採るためには、スムーズな意思疎通が必要であり、この予算戦略会議はその機会。実行にあたり、スケジュール感を関係府省と共有し、総合科学技術会議のみではなく、関係府省あつての実行なので連帯責任で一緒にやっていきたい。
- 予算を取ることが目的ではなく、予算で結果を出すことが重要。定量的なロードマップ、府省連携のための役割・権限・責任の明確化が必要。限られた国の予算投入に対するアウトプット、リターンを考え、短期、中期、長期に分けたテーマの優先順位などを総合科学技術会議として、提案していきたい。
- 政治・行政が科学技術、研究者に対して大きく期待していることをアカデミアに強く発信し、強くサポートしたい。行政からも現場へ求めるものを発信してほしい。戦略的イノベーション創造プログラムについては、総合戦略第2章の「科学技術イノベーションが取り組むべき課題」が核になる。プログラムの大きな方向性、アイデアは総合科学技術会議がきちんと出したい。関係府省の協力、府省の壁を外した連携をお願いしたい。

以上